

企業研究

ソフトバンクBB株式会社

ADSLの上位サービスとしてFTTHを本格始動

2004年10月に「Yahoo! BB 光」を発表し、2005年になってトリプルプレイサービスが揃ったソフトバンクBB。ADSLも堅実に増加しているが、光テレビを主力とした光ファイバー事業へ本格参入した。

光TVでFTTHが本格始動

1Gbpsアクセスのブロードバンド総合サービス「Yahoo! BB 光」が2004年10月に開始されてから、各種オプションサービスの提供を経て、2005年3月「Yahoo! BB 光 TV package」「Yahoo! BB 光マンションTV package」が登場した。光インターネット接続サービスの開始からトリプルプレイサービスの提供までに半年を要したわけだが、今回のサービス提供にあたりソフトバンクBBは、「まずサービスをきっちり作りこみ、受け入れ体制を整えたくて提供を開始することを最優先に取り組んできた」そうだ。孫社長の「ADSLで電話を変えた。FTTHでテレビを変える」という宣言からも、ソフトバンクBBが本来提供しなかった商品ラインナップがここへ来てようやく揃ったことになる(図1)。オプションの「BBTV」は、衛星放送や人気のCATV番組を提供するブロードバンド放送と、家にいながら映画をレンタルして観ることができる電子レンタルビデオの2つのサービスを提供する。これはYahoo! BB ADSLでも提供しているサービスであるが、ADSL環境ではサービスエリアが10都道府県に限られていた。その点、光はエリアが全国に広がるほか、安定して音声・動画を配信できることから、ソフトバンクBBではBBTVを積極的にプロモーションしていくと言う。また現在はFTTH工事の際に機器設定から視聴確認までを代行するサービスが無料で標準装備されており、顧客満足度の向上にも配慮している。

戸建市場でのサービス展開も視野にソフトバンクBBでは、光 TV packageのサービス開始と同時にADSLからの乗り換えにも対応するようになったが、あくまでも光サービスは現段階で「上位サービス」として位置付けられていると言う。実際、「Yahoo! BB ADSL」の新規加入者は今なお純増を続けており、こちらも引き続き大きな市場と認識している(資料4-1-10)。「Yahoo! BB光」のインフラに注目すると、2005年3月の時点での全国人口カバー率は約6割、対Bフレツツカカバー率では今春にはほぼ100%近くという高い数字になっている。「BB フォン光」同士のほか、一部サービスも通話が無料であることを考えると、ユーザーにとっては高いカバー率はうれしいことだろう。またホーム/マンション比率では、ややマンションのほうが上回っているそう

だ。戸建への光ファイバー敷設の場合はNTTから芯線を借りるコストゆえ、どうしても割高な価格設定となっているが、ソフトバンクBBではそれを企業努力によって下げる使命があると考え、光ファイバーの集約率や利益率を高めていくことで対応していきたいとしている。また電柱使用権の問題から、これまではNTTや電力系以外の事業者は戸建市場への参入が難しかったが、総務省を含め関連会社が意見交換を行い、スムーズな処理に向けた働きかけを行っている。規制が緩和されれば、戸建市場へもさまざまな事業者が参入可能となる。そうなれば自由競争の原理が働き、FTTHユーザーにとっては今後さらに価格面でメリットを得られることが考えられる。

(取材・文/柏木由美子)

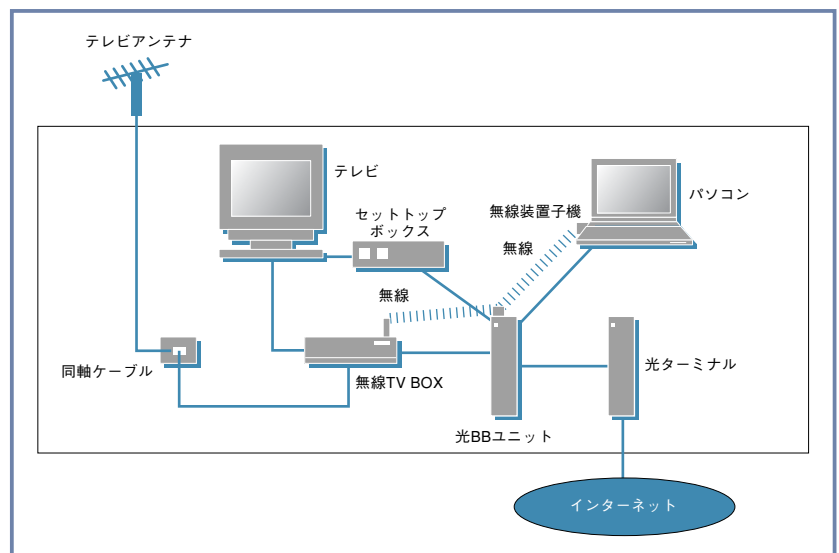
資料4-1-10 Yahoo! BB ADSLの進捗状況

	2005年3月末	対前月比増加数
Yahoo! BB ADSL接続回線数(万回線)	477.6	2
BBフォン回線数*(万回線)	451.7	3
接続可能局舎数	4,006	12

(*)Yahoo! BB/BBフォンのサービスでBBフォンの登録が完了されている回線数

出所 ソフトバンクBB

■ 図1 Yahoo! BB 光 TV packageの構成(無線TVパック利用の場合)





[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp